

『野川下りシリーズ』③いよいよ”調布”へ

「野川下りシリーズ」も、今回は三鷹市から調布市に入りますが、これは野川の話で、ウォーキングコースとしては、府中市（三鷹市、調布市も）にもまたがる都立武蔵野の森公園からのスタートです。調布は、江戸時代には甲州街道の宿場とそれを支える農村でした。今は、映画の町、スタジアムの町、伊豆の島々の鮮魚が空路で届く町です。

今回は新旧取り混ぜて、新選組局長、近藤勇のふるさと、B29の空襲のメモリアル、東日本最古の国宝白鳳仏像のある深大寺にも訪れます。

* 6月は、雨対策、熱中症対策が必要です。途中、コース変更、中止もあります。

243回WHOウォーキングのご案内

期 日：2022年6月25日(第4土曜日)

コース：JR 中央線武蔵境駅－西武多摩川線多磨駅－都立武蔵野の森公園北地区（修景池・ふるさとの丘・掩体壕など）－調布飛行場（遠望）－龍源寺など近藤勇ゆかりの場所（墓所・生家跡・道場跡・井戸跡）－大沢の里（水車経営農家・古民家・水田など）－深大寺（解散）－＜バス＞－JR 中央線吉祥寺駅京王線つつじヶ丘駅、調布駅など。

集合・出発：JR 武蔵境駅 10:00 10:04 発の多摩川線に乗ります。時間厳守。

受 付：初回の方は、必ず住所・電話番号・を書いて下さい。前回書いていない方もお願いします。

解 散：深大寺観光案内所 14:00 頃
携行品：名札、マスク、弁当、飲料、雨具、4月にお渡したパンフレット『野川マップ』は、シリーズ終了までご持参ください。初回参加の方にはお渡しします。

参加費：300円。初参加の方は、名札代 200円。（必ず着用）。深大寺の拝観料などは各自でお願いします。

みどころ

都立武蔵野の森公園：この地域は 1941（昭和 16）年、東京調布飛行場として開設、すぐ日米開戦で陸軍基地となり、敗戦後米軍に接収を経て、2000（平成 20）年に返還され、調布飛行場と都立公園に分割された。調布飛行場を挟み南地区に各種球技場、南

地区に修景池、大芝生広場、林、ふるさとの丘、掩体壕がある。

ふるさとの丘:全国 47 都道府県にゆかりのある石が展示されている。調布飛行場が一望出来る人気のスポット。

掩体壕:戦時中、戦闘機飛燕を守った防空壕。

調布飛行場:1974 (昭和 49) 年に米軍から返還され、2001 年に正式な空港 (都営) として開港。伊豆諸島へ定期航路が運航されている。39 万㎡、800m の滑走路を有する。

近藤勇ゆかりの地:新撰組局長、近藤勇の墓、胸像が龍源寺にあり、その門前に胸像、道を隔てて生家跡、彼が産湯を使った井戸、彼の父が設けた剣道道場跡がある。

大沢の里:水車経営農家、古民家を、かつての村風景の中で保存しようとしている。今回は、水車農家が改装中なので、小学生が田植えした早苗が風にそよぐ光景を見る。

深大寺:水の乏しい地域にハケ下の湧き水が水神信仰をもたらし、天平 5 (722) 年、満功上人が開山した都内有数の古刹。釈迦堂にある銅造釈迦如来倚像は、奈良白鳳期に制作された東日本最古の国宝。

コロナ対策の継続

蔓延防止が解除になっても、当分は、これまで通り用心しましょう。マスクは着用して、必要に応じてはずしてください。

野川水辺の道を歩く —5月WHO報告—

5 月例会は、5 月 28 日 (土)、野川下りシリーズ②として、小金井市滄浪泉園から、三鷹市、調布の境まで歩きました。

JR 武蔵小金井駅からバスで滄浪公園に向かいます。参加者は 40 人。

滄浪泉園は、犬養毅首相と親しい財界人の別荘でした。先月訪れた國分寺の殿ヶ谷戸庭園が同じ國分寺崖線にあり、明るく解放的なのに対しこちらは、崖の道も細く急坂で厳しく、池も森も暗く、それだけに深山の趣がありました。野鳥の飛来も多いようです。野川を、前回解散した貫井大橋から歩き始めました。川の幅は約 20m、水流は 3m ほど。水流

と護岸の間は草が茂り、小径があって歩けます。ここから暗渠部分以外は沿道を歩いたり、川辺に降りて小径を行ったり、時には飛び石伝いに対岸に渡ったり。どちらを歩いても今が盛りと花々が咲き誇っていました。最高気温は 29℃と予報されていたので日陰の休憩を度々取りました。新小金井橋で右岸に折れて都立武蔵野公園のはらっぱの大きなトウカエデの木の下で、みんなで待望のお弁当。12 時 15 分。

昼食後は園内の東京都の公園や街路樹などの植栽する樹木の苗圃の森林を歩き、再び野川に沿います。西武多摩川線の鉄橋を野川と一緒にくぐると、ここからは都立野川公園。右手に広い芝生広場が望めました。桜橋から自然観察園に入ります。ここは武蔵野の植物の保存と観察を目的に開園し、バードサンクチュアリを併設しています。巡らされた木道を 30 分ほどで足早に歩き、わき水ひろばで解散し、それぞれ帰路に向かうバス停へ歩きました。貫井大橋から櫟橋まで 21 橋を通過しましたが、渇水期のため、どこでも子どもたちや親子連れが浅い、川の中をじゃぶじゃぶと歩いているのが印象的でした。参加者 40 人。

感謝

5 月例会で 84 円切手 30 枚と、同 20 枚、1,000 円のご寄付をいただきました。感謝して報告いたします。

★★「もしも「もう WHO は卒業」と思っておられても、リポートの送付は断りにくいと思われる方がおられましたら、遠慮なくお申し出ください。また、メール通信を希望される方も、ご連絡ください。

下見から

「川幅ってどこを計るのだろう」。ふと気になって公園事務所や役所の担当部署に問い合わせました。護岸から護岸の長さだと思ったら、川に沿う側道も含めた距離で、「河川域」というようです。本当かなあ。渇水で一時的に生まれた草地と小径には呼び名がないそうです。今回の報告では、河川域から道幅約 4m を差し引いた数値を川幅として記しました。(吉田明弘)